

平成24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 三重県の調査結果について（概要）

I 調査の実施状況について（冊子 P.1）

文部科学省は、調査対象として抽出した学校における小学校第5学年、中学校第2学年の全児童生徒を対象として全国的な抽出調査を行い、本県の実施状況は以下のとおりであった。

校種（全学校数）	抽出対象学校数（抽出率）	対象児童生徒数
小学校（391校）	77校（19.7%）	3,236人
中学校（166校）	34校（20.5%）	3,367人

※特別支援学校の抽出はありません。

II 調査結果（全国と三重県）について（冊子 P.2～P.39）

1 実技に関する調査の結果（冊子 P.2～P.13）

【小学校（第5学年）の平均値】（平成23年度は東日本大震災の影響等から調査中止）

調査種目	男子			女子		
	H24年度	H24年度	H22年度	H24年度	H24年度	H22年度
	三重県	全国	三重県	三重県	全国	三重県
握力 (kg)	↓ 16.32	16.70	16.86	↓ 15.85	16.23	16.30
上体起こし (回)	↑ 18.21	19.44	17.65	↑ 16.61	17.92	16.23
長座体前屈 (cm)	↑ 32.85	32.60	32.79	↑ 36.76	36.68	36.58
反復横とび (点)	↑ 40.86	41.58	40.78	↓ 38.32	39.23	38.61
20mシャトルラン(回)	↑ 49.81	51.58	47.71	↓ 36.33	39.89	36.82
50m走 (秒)	↑ 9.42	9.37	9.48	↓ 9.76	9.64	9.74
立ち幅とび (cm)	↑ 150.03	152.31	148.53	↓ 141.99	144.84	142.07
ソフトボール投げ(m)	↓ 23.35	23.80	25.25	↓ 14.21	14.25	14.77
体力合計点※ (点)	↑ 52.95	54.07	52.84	↓ 53.29	54.85	53.42

■ : 全国平均を上回る ↑ : 平成22年度三重県平均を上回る ↓ : 平成22年度三重県平均を下回る

※体力合計点：各調査種目の成績を1点から10点に得点化して総和した合計得点

全国の状況との比較において、体力合計点は、男女とも下回った。また、男女とも、長座体前屈の1種目が全国平均を上回り、その他は下回る結果であった。

平成22年度の三重県の状況との比較において、体力合計点は、男子は上回り、女子は下回った。男子は上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20m シャトルラン、50m走、立ち幅跳びの6種目が上回り、女子は上体起こし・長座体前屈の2種目が上回った。

【中学校（第2学年）の平均値】（平成23年度は東日本大震災の影響等から調査中止）

調査種目	男子			女子		
	H24年度	H24年度	H22年度	H24年度	H24年度	H22年度
	三重県	全国	三重県	三重県	全国	三重県
握力 (kg)	↓ 29.31	29.65	29.45	↑ 24.05	23.98	23.75
上体起こし (回)	↑ 27.50	27.58	25.78	↑ 22.50	22.84	21.04
長座体前屈 (cm)	↓ 42.84	43.27	43.07	↓ 44.25	45.00	44.48
反復横とび (点)	↑ 51.95	51.55	50.99	↑ 46.14	45.46	45.40
持久走 (秒)	↑ 390.10	391.04	400.82	↓ 300.73	292.23	298.01
20mシャトルラン(回)	↓ 83.66	86.24	84.91	↑ 56.65	57.87	55.59
50m走 (秒)	↓ 8.03	8.01	8.00	8.91	8.87	8.91
立ち幅とび (cm)	↑ 193.66	195.37	192.95	↑ 165.73	167.13	164.53
ハンドボール投げ(m)	↑ 21.29	21.23	21.13	↑ 13.84	13.12	13.62
体力合計点※ (点)	↑ 42.09	42.32	41.08	↑ 48.84	48.72	47.69

■ : 全国平均を上回る ↑ : 平成22年度三重県平均を上回る ↓ : 平成22年度三重県平均を下回る

※体力合計点：各調査種目の成績を1点から10点に得点化して総和した合計得点

全国の状況との比較において、体力合計点は、男子が下回り、女子は、上回っている。男子は反復横跳び・持久走・ハンドボール投げの3種目が上回り、女子は握力、反復横跳び、ハンドボール投げの3種目が上回り、その他は下回る結果であった。

平成22年度の三重県の状況との比較において、体力合計点は男女とも上回った。男子は上体起こし・反復横とび・持久走・立ち幅とび・ハンドボール投げの5種目が上回った。女子は握力・上体起こし・反復横とび・20m シャトルラン・立ち幅とび・ハンドボール投げの6種目が上回った。

【平成20年度以降の推移】

	小学校第5学年				中学校第2学年			
	男子		女子		男子		女子	
	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国
平成20年度	52.66	54.18	52.95	54.84	40.33	41.50	47.63	48.38
平成21年度	52.83	54.19	52.80	54.59	40.45	41.36	47.12	47.94
平成22年度	52.84	54.36	53.42	54.89	41.08	41.71	47.69	48.14
平成23年度	東日本大震災の影響等により、調査の実施が見送られました							
平成24年度	52.95	54.07	53.29	54.85	42.09	42.32	48.84	48.72

これまでの調査結果の推移より、小学校5年生の女子が前回をやや下回ったものの、平成20年度と比較して上昇している。また、小学校5年生の男子と中学校2年生の男女は、いずれも体力合計点の平均点が過去最高値を示すなど、全体的に上昇傾向がみられた。

全国状況と比較すると、依然として男女とも小学校5年生の体力に大きな課題が見られるが、中学校2年生の体力は、ほぼ全国平均まで上昇している。中でも、中学校2年生の女子は、初めて全国平均を少しながら上回る結果となった。

2 体格と肥満度に関する調査の結果（冊子 P. 15～P. 18）

○ 「身長」「体重」「座高」については、校種や男女の別にかかわらず、全国の平均値とほぼ同じであった。

「肥満傾向児出現率」は、小学校の男子は全国とほぼ同じであり、小学校の女子・中学校の男女は全国よりわずかに低い傾向がみられた。

【小学校】

区分	男子			女子		
	肥満	正常	痩身	肥満	正常	痩身
三重県	9.3%	88.3%	2.4%	8.1%	88.7%	3.2%
全国	10.2%	87.4%	2.5%	8.1%	89.4%	2.5%

【中学校】

区分	男子			女子		
	肥満	正常	痩身	肥満	正常	痩身
三重県	6.3%	91.4%	2.3%	5.7%	89.5%	4.8%
全国	7.9%	90.3%	1.8%	7.2%	89.2%	3.7%

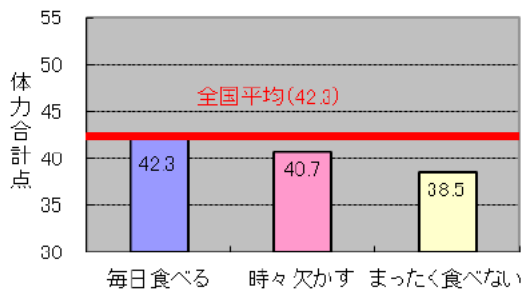
3 児童生徒質問紙調査の結果（冊子 P. 19～P. 33）

（1）生活習慣の状況（冊子 P. 19～P. 21）

○「朝食を毎日食べる」「1日の睡眠時間が8時間以上（小学校）」「1日の睡眠時間が6時間～8時間（中学校）」「1日のテレビ視聴時間が1時間未満」の集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

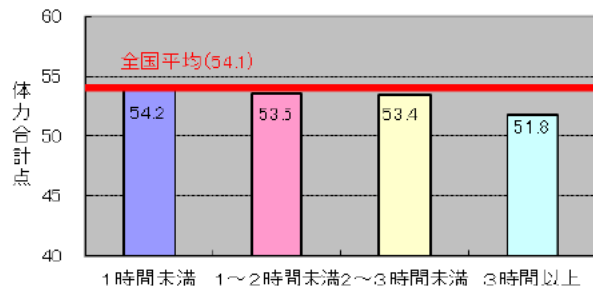
<朝食の有無>

【中学校】（男子）



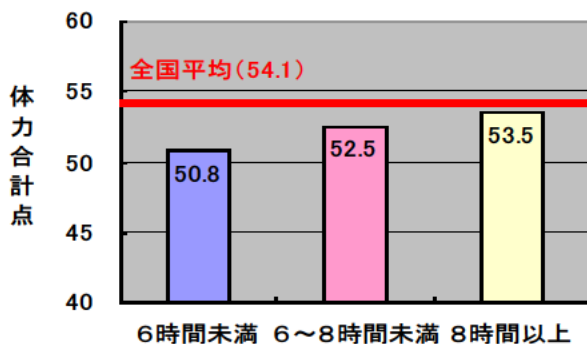
<1日のテレビ視聴時間>

【小学校】（男子）

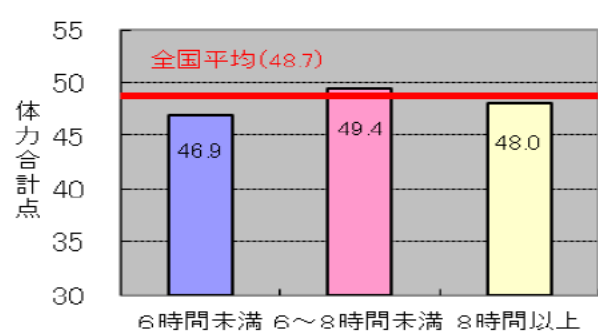


<1日の睡眠時間>

【小学校】（男子）



【中学校】（女子）

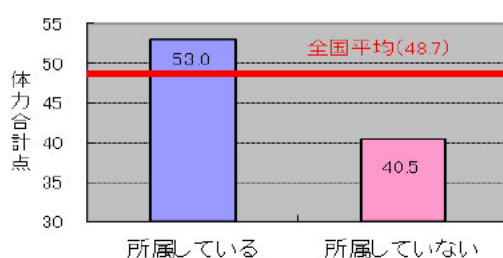


（2）運動習慣の状況（冊子 P. 22～P. 27）

○「運動部や（地域）スポーツクラブに入って（所属して）いる」「運動やスポーツをほとんど毎日（週に3日以上）している」「1日の運動・スポーツの実施時間が長い」「土曜日・日曜日に運動やスポーツしている」集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

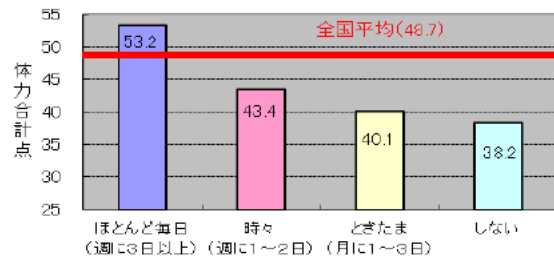
<運動部やスポーツクラブへの所属>

【中学校】（女子）

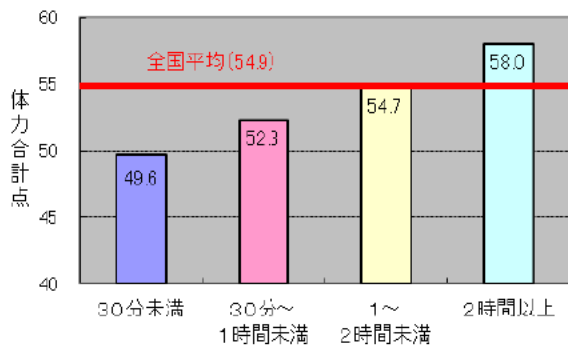


<運動やスポーツの頻度>

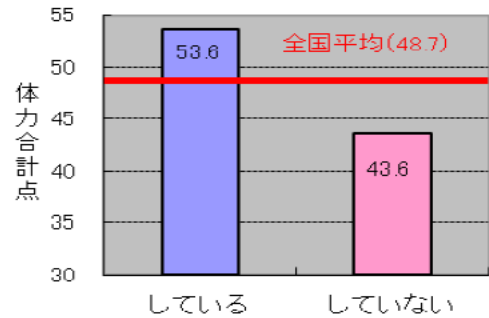
【中学校】（女子）



<1日の運動・スポーツの実施時間>
【小学校】(女子)



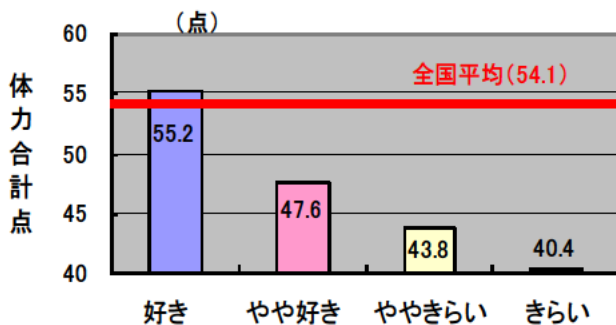
<日曜日の運動・スポーツ実施>
【中学校】(女子)



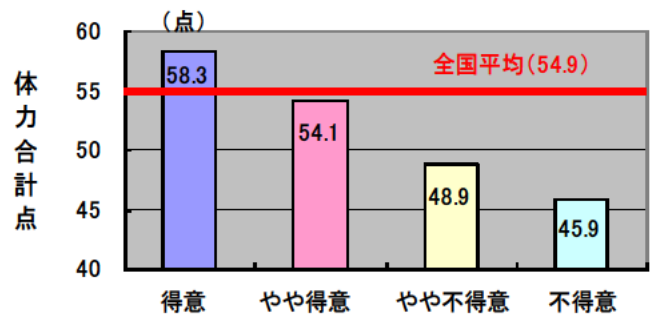
(3) 運動やスポーツに関する意識 (冊子 P. 28～P. 30)

- 運動やスポーツをすることが「好き」「得意」「もっとしたいと思う」集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

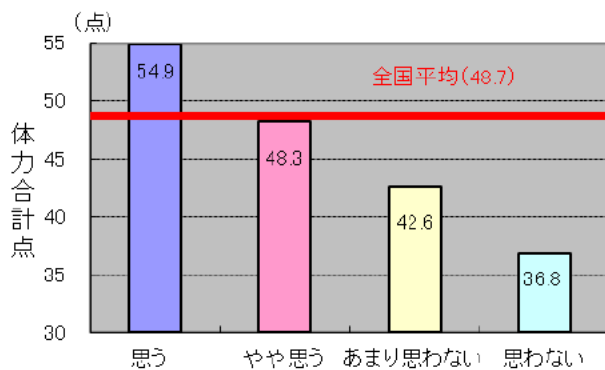
<運動・スポーツの好き嫌い>
【小学校】(男子)



<運動・スポーツの得意・不得意>
【小学校】(女子)



<運動やスポーツをもっとしたいと思うか>
【中学校】(女子)

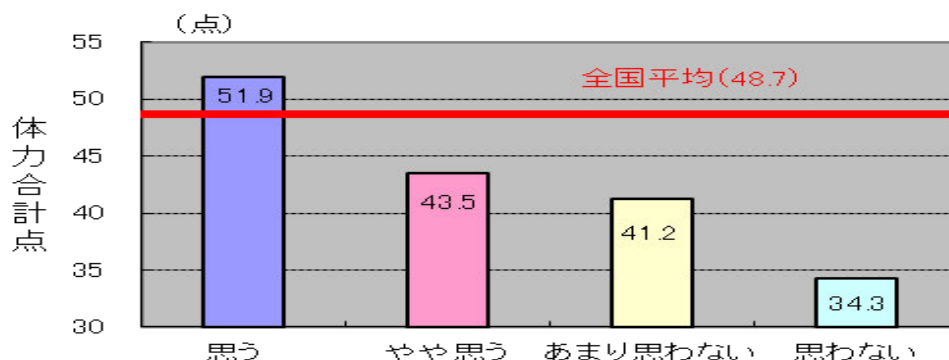


(4) 運動やスポーツは体力向上のために大切なことだと思うか (冊子 P. 31)

- 「運動やスポーツは体力向上のために大切なことだと思う」集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

<運動やスポーツは体力向上のために大切なことだと思うか>

【中学校】(女子)

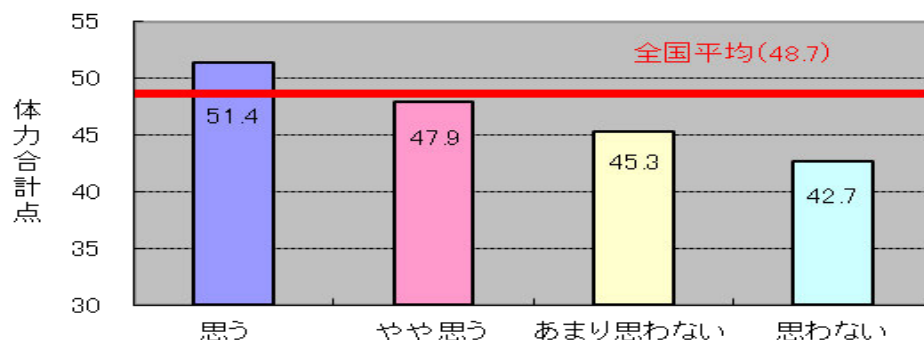


(5) 生活習慣は体力向上につながっていると思うか (冊子 P. 32)

- 「生活習慣は体力向上につながっていると思う」集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

<生活習慣は体力向上につながっていると思うか>

【中学校】(女子)



(6) 児童生徒質問紙調査結果のまとめ

- 朝食を毎日食べることや、適切な睡眠時間を確保することなど、基本的な生活習慣を身につけることが、子どもたちの体力に大きな影響を与えていることが、あらためて確認できた。

子どもたちの基本的な生活習慣に目を向け、総合的に体力向上を図る必要がある。

- 運動やスポーツの「好き」「嫌い」が体力合計点に大きく関わることを確認された。

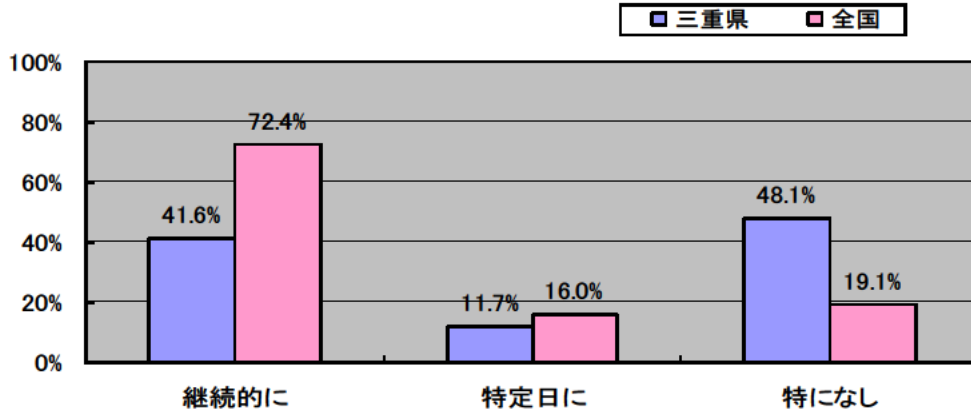
子どもたちが運動を「好き」になる体育の授業を目指して、授業の工夫や改善をさらに進める必要がある。

4 学校質問紙調査の結果（冊子 P. 34～P. 40）

（1）体育の授業以外での体力向上に関する取組状況（冊子 P. 34～P. 35）

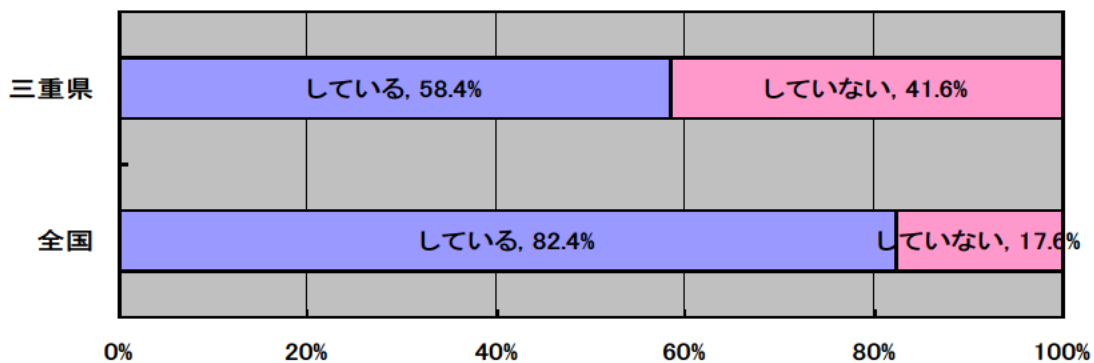
- 全国との比較において、小学校・中学校ともに「体育の授業以外で継続的な取組をしている学校」の割合は低く、「していない」学校の割合は高かった。

【小学校】



- 運動習慣を確立する手立てを「している」学校の割合は、全国と比較して、小学校・中学校ともに低かった。

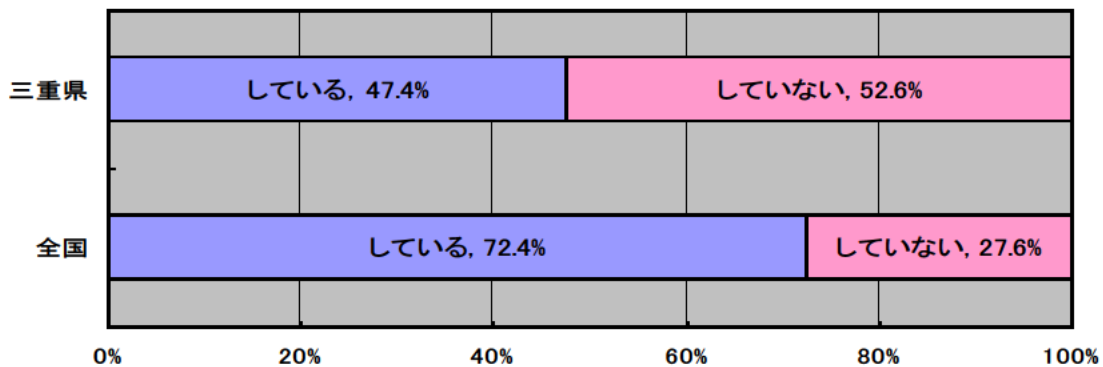
【小学校】



（2）運動の実施時間が少ない児童に対する取組状況（冊子 P. 36）

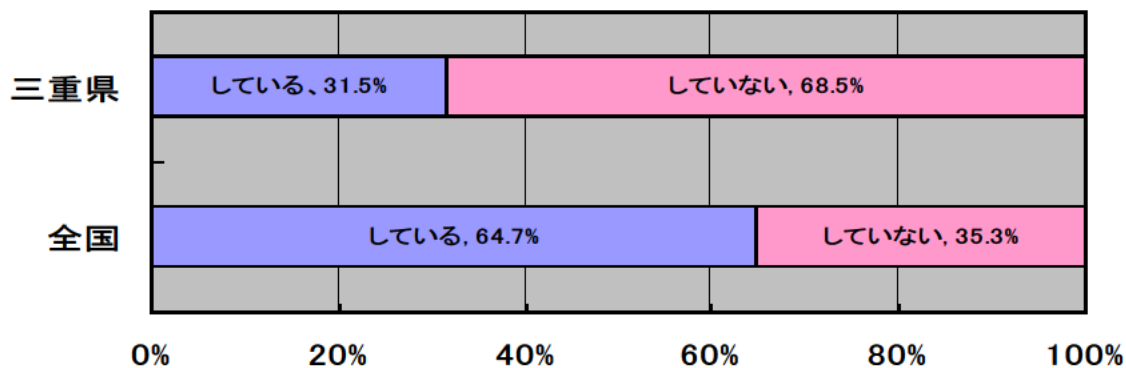
- 運動の実施時間が少ない児童生徒の状況を把握「している」学校の割合は、全国と比較して、小学校・中学校ともに低かった。

【小学校】



- 運動の実施時間が少ない児童生徒に対する取組を実施「している」学校の割合は、全国と比較して、小学校・中学校ともに低かった。

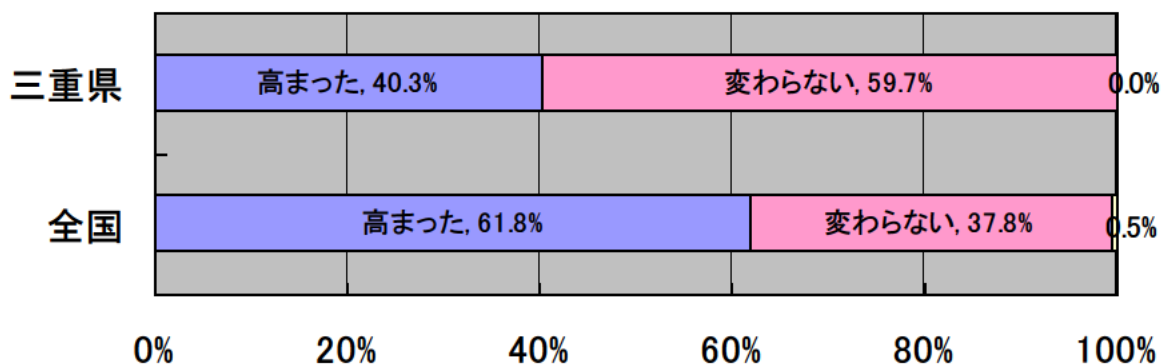
【小学校】



(3) 平成20年頃と比較した教員・児童・家庭の関心及び体力向上の取組(冊子 P. 38)

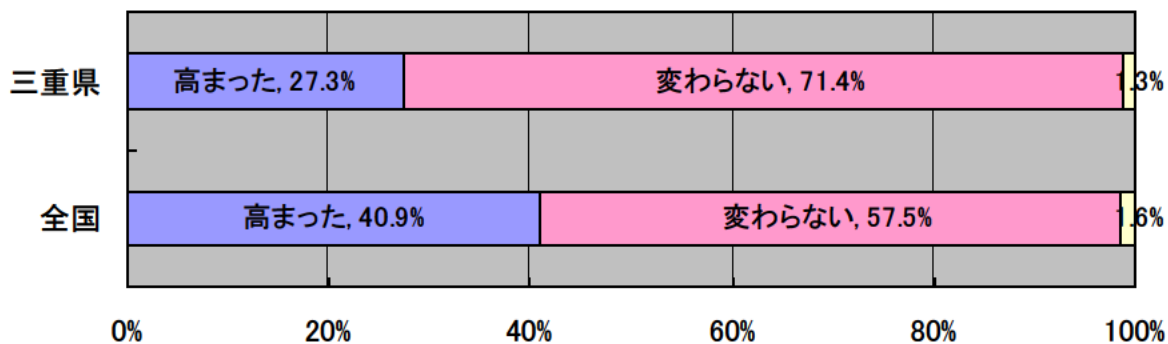
- 子どもの体力向上に関する教員の関心が「高まった」学校の割合は、全国と比較して、小学校は低かった。

【小学校】



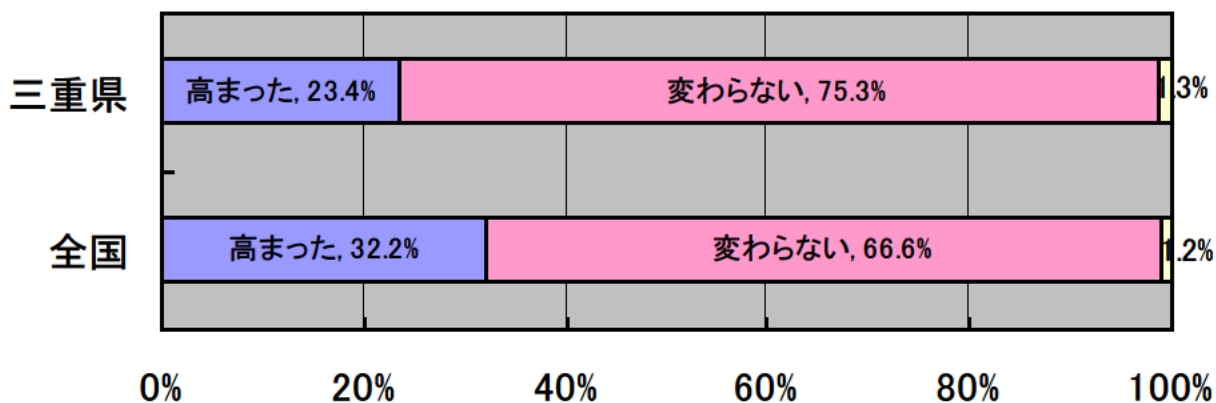
- 子どもの体力向上に関する児童生徒の関心が「高まった」学校の割合は、全国と比較して、小学校・中学校ともに低かった。

【小学校】



○ 家庭の関心が「高まった」小学校の割合は、全国と比較して低かった。

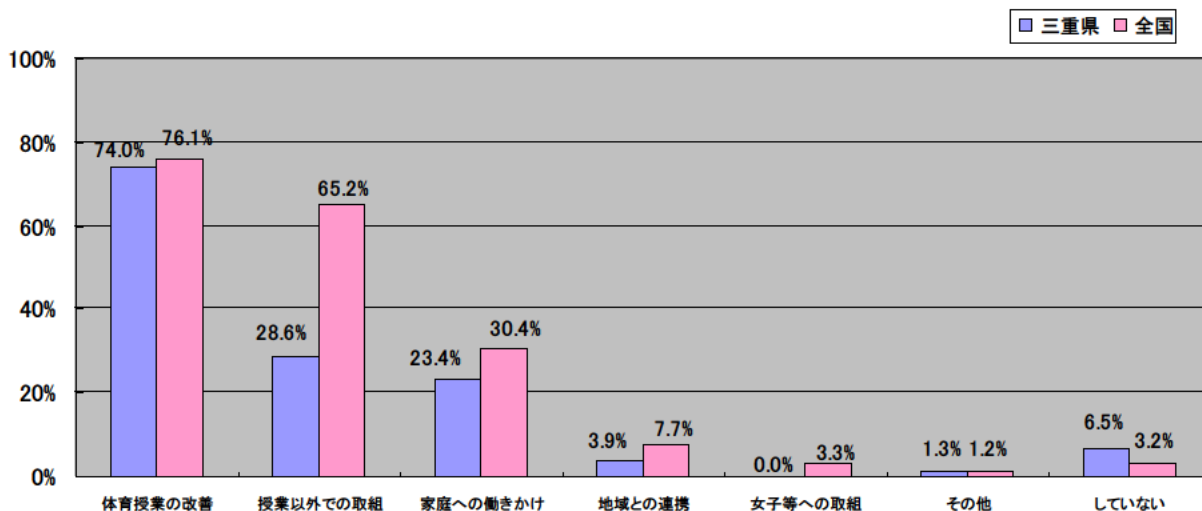
【小学校】



(4) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組（冊子 P. 40）

○ 「授業の改善に取り組んだ（取り組む予定である）」学校の割合が、全国と比較して、小学校・中学校ともに低かった。

【小学校】



(5) 学校質問紙調査結果のまとめ

○ 体力向上に関する取組や、子どもたちの運動習慣を確立する手立てをしている学校が、依然として全国に比べて低い状況にある。また、子どもの体力向上に関する教員の関心の高まりも、全国に比べて低いことがわかった。

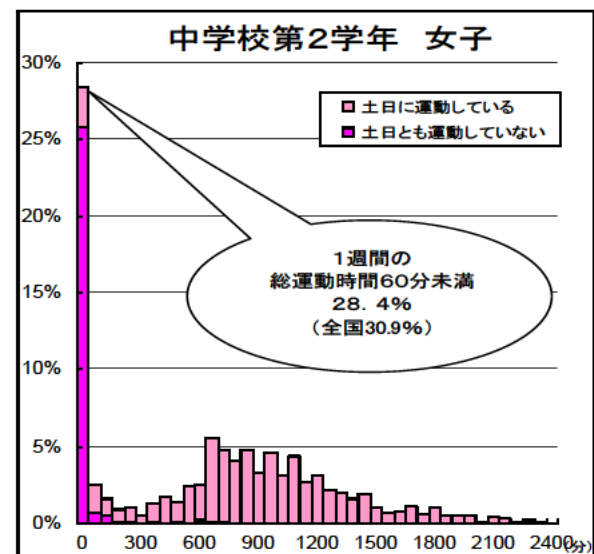
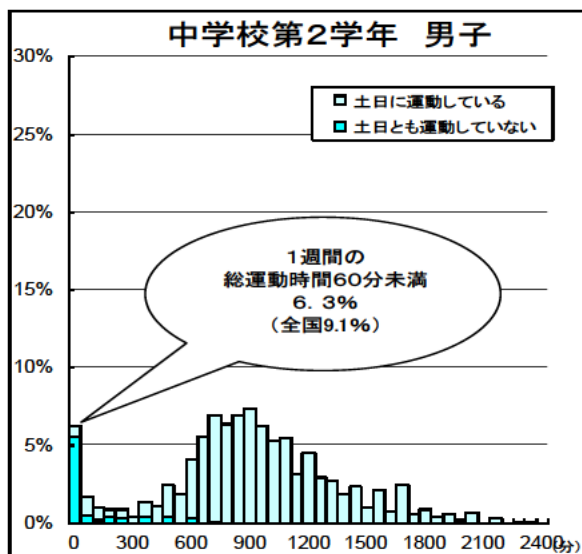
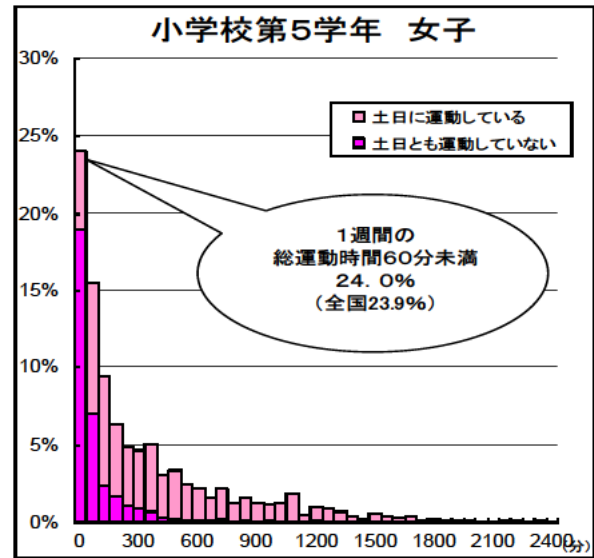
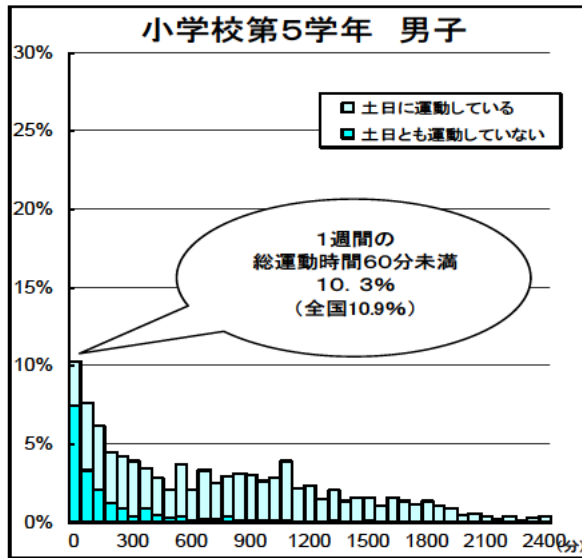
教員に対する研修や、学校への働きかけ等を通して、体力向上に向けた取組の必要性や重要性を、これまで以上に訴える必要がある。

Ⅲ 調査結果の特徴について（冊子 P. 41～P. 54）

1 児童生徒の運動習慣と体力（冊子 P. 41～P. 42）

1週間の総運動時間の分布は、平成20～22年度調査と同様、小学校で運動をほとんどしていない児童が多く、中学校で二極化がみられ、特に女子においては顕著であった。

また、校種や男女の別にかかわりなく、運動部や（地域）スポーツクラブへの所属の有無と大きく関連している。



- 1週間の総運動時間（体育の授業以外）が60分未満という、ほとんど運動しない子どもが、全国と同様に相当数いる状況があらためて確認できた。とりわけ女子については、4人に1人以上がほとんど運動していない。

また、中学校において、よく運動する子とほとんど運動しない子の二極化が明確である。

各学校が子どもたちの状況を把握し、日常的に運動する習慣づくりに努めるよう、学校に働きかける必要がある。

2 児童生徒の体力、運動習慣、食習慣・生活習慣の変化（冊子 P. 42～P. 51）

※前回調査（平成22年度）との比較

（1）体力・運動能力（冊子 P. 43～P. 44）

	小学校5年生		中学校2年生	
	男子	女子	男子	女子
体力合計点	変化なし	変化なし	前回より 高い	前回より 高い
総合評価が A B Cの割合	変化なし	変化なし	前回より 高い	前回より <u>低い</u>

※ 総合評価は、体力合計点の高い「A」から、体力合計点の低い「E」までの5段階に判定される。教育委員会では、総合評価が「D」「E」の子どもの割合を減らし、「A」「B」「C」の子どもの割合を高めることを目標に置いて、子どもたちの体力向上に取り組んでいる。

- 中学校の女子において、体力合計点の平均値が前回調査より高いにもかかわらず、総合評価「A」「B」「C」の割合は低くなっている。2極化傾向がさらに強まっていることが予想されるため、ほとんど運動しない子どもへの手立てが必要である。

（2）運動やスポーツの実施状況（冊子 P. 45～P. 47）

	小学校5年生		中学校2年生	
	男子	女子	男子	女子
ほとんど 毎日実施	前回より 高い	前回より <u>低い</u>	前回より 高い	前回より <u>低い</u>
運動部・スポー ツクラブに 所属	変化なし	前回より <u>低い</u>	前回より <u>低い</u>	前回より <u>低い</u>
1日の 運動時間が 1時間以上	前回より <u>低い</u>	前回より <u>低い</u>	前回より <u>低い</u>	前回より <u>低い</u>

- 運動やスポーツの実施状況は、前回調査より全体的に低い傾向が見られる。子どもたちが運動を好きになり、自ら運動に取り組む意欲が高まるような取組が必要である。

(3) 運動やスポーツに対する意識 (冊子 P. 48~P. 49)

	小学校 5 年生		中学校 2 年生	
	男子	女子	男子	女子
運動やスポーツが好き	変化なし	前回より <u>低い</u>	前回より <u>高い</u>	前回より <u>低い</u>
運動やスポーツが得意	変化なし	変化なし	前回より <u>低い</u>	変化なし

○ 小学校、中学校ともに、女子の運動やスポーツが「好き」と答える割合が前回より低くなっている。子どもたちがますます運動から遠ざかってしまう恐れがあるため、体育の授業改善を通して、子どもたちが運動を好きになる取組が必要である。

(4) 食習慣・生活習慣 (冊子 P. 50~P. 52)

	小学校 5 年生		中学校 2 年生	
	男子	女子	男子	女子
毎日、朝食を食べる	前回より <u>高い</u>	前回より <u>低い</u>	変化なし	前回より <u>低い</u>
睡眠時間	8 時間以上	前回より <u>高い</u>	/	
	6~8 時間	/		
テレビ視聴 3 時間以上	変化なし			前回より <u>低い</u>

○ 小学校、中学校ともに、女子において朝食を毎日食べる子どもの割合が、前回調査よりも低くなっている。痩身とのかかわりは不明であるが、朝食をきちんと摂取しない女子が増えていることが危惧される。

朝食の摂取について、その必要性や重要性を子どもたちに認識させる必要がある。

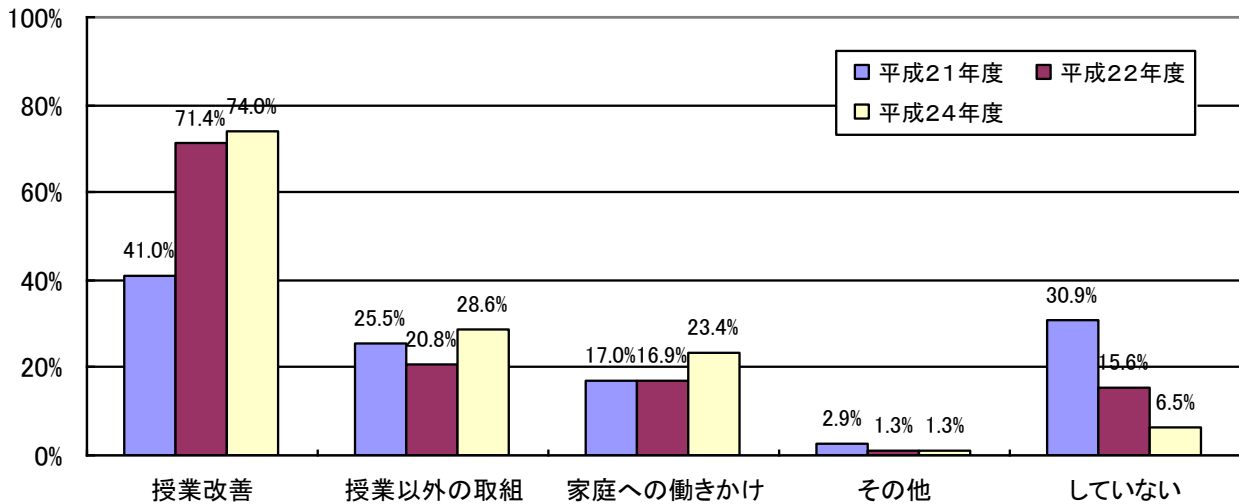
(5) 前回調査との比較全体を通して

○ 小学校、中学校ともに、多くの項目で女子に課題が見られた。ほとんど運動しない子どもが特に女子に多いことから、体育の授業を通して女子の運動嫌いをなくし、自ら運動に取り組もうとする意欲を高める必要がある。

3 学校の体力向上への取組の変化（冊子 P. 53～P. 54）

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組については、平成22年度に比べて、小学校・中学校ともに「体育の授業改善への取組」をしている学校の割合が高く、「していない」学校の割合が低かった。

【小学校】



- 体育の授業改善に取り組む学校の割合は、年々高くなっているものの、授業以外の取組や家庭への働きかけは、依然として低い状況が続いている。

新体力テストを継続的に実施し、子どもたち一人ひとりの状況を的確に把握するとともに、体力テストの結果を「体力の成長記録」として有効に活用する取組を進める必要がある。